

樫谷議員 皆さん、おはようございます。通告していました「子どもはぐくみ医療の自己負担の見直し」について、質問します。現在、我が国は、長期的な、少子高齢化社会となっており、子どもの数は、年々減り続けています。子どもの数が、減り続ける要因の一つには、子育てにお金がかかりすぎる、子育て世帯の負担が大きすぎるのが、要因のひとつと考えられます。このような現状を踏まえ、多くの自治体では、子育て世帯の負担を軽減するため、あるいは、子どもの生命・健康を守るため、子どもに関する医療費の助成の、拡充を図ってきています。これまで、牟岐町では、助成対象年齢を18歳に達する年度まで引き上げるなど、助成の拡充に努めてきたところであるが、他の自治体においては、さらに拡充し、通院及び入院の際の自己負担額まで助成している自治体もあるが、牟岐町も子どもはぐくみ医療費に関する、助成制度を見直し、通院及び入院の際の、自己負担額まで助成しては、と思いますが、町長の見解、ご答弁をよろしく願います。

一山議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 皆さん、おはようございます。只今、樫谷議員からいただきましたご質問の「子どもはぐくみ医療の自己負担の見直し」について、お答えします。現在、牟岐町においても、長期的な少子高齢化社会となっており、子どもの数は年々減り続けています。議員の言う通り、子どもの数が減り続ける要因の一つには、子育てにお金がかかりすぎる、子育て世帯の負担が大きすぎるのが、要因のひとつと考えられます。このような現状を踏まえ、多くの自治体では、子育て世帯の負担を軽減するため、あるいは、子どもの生命・健康を守るため、子どもに関する医療費の助成の拡充を図ってきています。牟岐町においては、通院に関する医療費については、満3歳の誕生日の属する月の翌月の、初日から18歳に達する年度末まで、入院に関する医療費については、満6歳の誕生日の属する月の翌月の初日から、18歳に達する年度末まで、1保険診療につき、600円を超える部分の助成をおこなっています。一部、自己負担していただいている部分まで、町が助成する場合、試算しますと、年間約150万前後、必要となります。

が、助成拡充を図りたいと思います。以上です。よろしくお願いします。

一山議長 榎谷議員。

榎谷議員 今、枳富町長より答弁をいただきました。子どもはぐくみ医療の自己負担の見直しについて、子育ての支援策の一環として、受け入れていただきまして、ありがとうございます。子育て世帯は、大変喜ぶと思います。これで私の一般質問を終わります。